

はじめに

—ゲノム医療を自らのものとして考えるために—

「ゲノム医療」とは、個人の「ゲノム情報」をはじめとした各種オミックス検査情報をもとにして、その人の体質や病状に適した「医療」を行うことを指す。具体的には、質と信頼性の担保されたゲノム検査結果等をはじめとした種々の医療情報を用いて診断を行い、最も有効な治療、予防及び発症予測を国民に提供することを言う。

ゲノム医療実現推進協議会：中間とりまとめ、平成27年7月
(https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryou/genome/pdf/h2707_torimatome.pdf) より引用。

わが国ではすでに難病やがんの領域を中心にゲノム情報にもとづいた診断や治療が進められております。

ゲノム医療の強みは病気や症状の診断や治療のみならず予防を可能にすることです。前漢時代の医学書である黄帝内経には「聖人は已病を治さずして未病を治す」と、未病のうちから治療するのが聖人だと述べられています。現在の医療は病気や症状にもとづいた治療を中心に急速に発展してきましたが、ゲノム情報を知ることは未病からの介入を可能にします。さらに令和7年度を目途に全ゲノム解析を医療に導入することを国策として決定しました。2000年前は「聖人」の手のなかにあったとされる未病の医療でしたが、現在は個人でも遺伝情報を知ることができ、医療者や血縁者、研究者と一緒に考えていくことで、医療者のみならず、すべての国民がゲノム医療について知っておくべき時代が到来しています。

本書は当初岡山大学の教養教育課程講義「ゲノム医療入門」を担当する教員を中心に、大学の1～2年生に向けて伝えることを目的に執筆をはじめました。羊土社さんのご尽力によりさらに専門家の皆さんに加わっていただき、立派な本にさせていただきました。

ゲノム情報を一人ひとりが自分のものとして活用できる社会の到来に向けて、臨床遺伝学、ゲノム医学の基礎的な知識と考え方、遺伝カウンセリングと遺伝学的検査、難病、小児、周産期、がんにおけるゲノム医療について基本的な知識をもち、一緒に考えるきっかけになればと願っております。

2024年6月

平沢 晃